

食品廃棄物を活用したバイオガス・コージェネレーション発電

<概要>

- ・ 事業実施主体：株式会社 開成
(新潟県村上市)
- ・ 発電設備：バイオガス・コージェネレーション発電
発電出力 25kW
発電電力量 21万kWh/年
- ・ 燃料：温泉宿及び食料品店等からの食品廃棄物 (メタン発酵させて発電)
4.9トン/日
- ・ 建設費：約3億円 (温室ハウス、加温設備等を含む)
- ・ 運転開始時期：平成24年11月 (発電設備)
(メタン発酵プラントは平成24年5月に本格稼働)



バイオガス・コージェネレーション施設

<特徴>

- ・ 農業者が主導する地域資源循環型のビジネスモデルの構築を目指して、事業者の敷地内にバイオガス・コージェネレーション発電設備を設置。
- ・ 発電した電力は、電力会社に全量売電。併せて創出されたバイオマス熱は、パッションフルーツの栽培ハウスの暖房に活用。
- ・ 生産されたパッションフルーツは、品質の高さを評価され、東京の高級果物専門店等で販売するほか、隣接する直売所でジェラート等に加工して観光客向けに販売。
- ・ 発電の際に生じた消化液は、近隣の農地に散布し、液肥として有効活用。



バイオマス熱を利用してパッションフルーツを加温栽培

ジェラートに加工し販売